

令和8年度 神山中学校 学校経営方針

自分の未来は、
自分でつくる

神山中学校 校長 海老名 正規





私たちの揺るぎない礎

校訓

「やり遂げる」

この校訓の精神をすべての教育活動の根幹に据え、生徒たちが未来を切り拓くための土台を築きます。

学校教育目標

校訓「やり遂げる」の精神で、
夢と志あふれる人間性豊かで
たくましい生徒を育てる。

夢

自分が幸せになるための目標

志

まわりの人を幸せにするための目標

私たちがめざすのは、 生徒が「主体性」と「当事者性」を もって学ぶ学校です。

本経営方針は、神山中学校の揺るぎない校訓「やり遂げる」の精神に基づき、生徒一人ひとりの夢と志を育み、人間性豊かであらう人間に成長するための設計図です。

その実現のため、私たちは「主体性」と「当事者性」という二つの力を教育活動の核に据えます。

私たちの教育の中心にある、二つの力



「主体性」 (Agency)

- 自分の「好き」と「課題」を見つけること
- 自分の判断で行動すること



「当事者性」 (Ownership)

- 積極的に他者に関わろうとすること
- 自分の行動に責任を持つこと

神山中学校が育てる生徒像

私たちは、以下の資質を備えた生徒の育成をめざします。



自分の将来について深く考えられる生徒



進んで学習に取り組むことができる生徒



お互いを認め、支え合える生徒



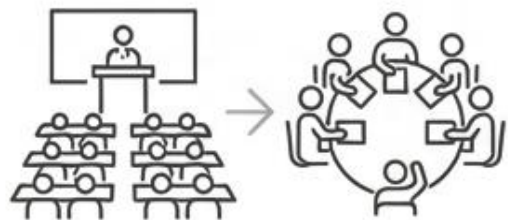
健康で明るく、主体的に行動できる生徒

生徒の挑戦を支える、私たちの教師像

めざす教師像

- 1 教育に情熱を持ち、授業を大切にする教師
- 2 生徒の尊厳を守り、生徒から学ぶ教師
- 3 教員としての自覚を持ち、研修を大事にする教師

「主体性」と「当事者性」を育むための3つのアプローチ



1

講義型授業からの脱却

知識伝達型から、生徒中心の学びへシフトします。



2

生徒が「コト」を起こしたくなる場面の設定

生徒の「やってみたい」を引き出す、動機付けとなる体験を設計します。



3

「コト」を起こすために必要な力を育む活動の実践

アイデアを形にするための具体的なスキルとマインドセットを育みます。



① 講義型授業からの脱却：知識を得る場から、知恵を創る場へ

- 主体的、対話的で深い学びの実現：生徒同士が協働し、探究する学習活動を推進します。
- **GIGAスクール構想**の展開：Google県域アカウント等を活用し、一人ひとりに最適化された学びと、創造的なアウトプットを支援します。
- 生徒の興味関心を喚起する授業改善：教材、指導方法、評価の工夫を一体的に行い、生徒の「知りたい」「学びたい」という意欲を引き出します。

② 「コト」を起こしたくなる場面の設定：内なる情熱に火をつける



自分の「好き」を
見つけられる体験

多様な活動を通じて、生徒が自身の興味や関心の源泉に気づく機会を提供します。



自分の「好き」を
語る体験

自分の好きなことについて他者に伝え、共感や新たな視点を得る場を設けます。



先輩や社会人から
学ぶ体験

地域や社会の第一線で活躍する大人との対話を通じ、学びと社会との繋がりを実感させます。

③ 「コト」を起こす力の育成：未来を創造するための4つの能力

総合的な学習の時間や特別活動で重点的に育む4つの力

かかわる力

(Power to Engage)

人間関係形成・社会形成能力

みつめる力

(Power to Reflect)

自己理解・自己管理能力

すすむ力

(Power to Advance)

課題対応能力

えがく力

(Power to Envision)

キャリアプランニング能力

私たちが生徒に身につけてほしい、未来を生き抜く力



アイデアを生み出す
創造力 (Creativity)

ゼロから新しい価値を構想する力。



仲間と力を合わせる
協働力 (Collaboration)

多様な人々と目標を共有し、達成する力。



アイデアを実現する
行動力 (Action)

計画を現実に移し、粘り強く実行する力。



リスクに立ち向かう
精神力 (Resilience)

失敗を恐れず挑戦し、困難を乗り越える力。

教育課程柔軟化サキドリ研究校 指定状況 (令和8年2月時点)



「調整授業時数制度」導入後の円滑な制度実施に向けて、全国の学校や教育委員会での知見の蓄積が喫緊の課題。

「調整授業時数制度」(既存の各教科等への上乗せ、教科の新設、裁量的な時間(学習枠、研究・研修等枠))を先取りして試行し、柔軟な教育課程の編成・実施に取り組む学校を「サキドリ研究校」として指定。

指定校数 合計：332校

国公立	公立	国立
学校数	319	13

*別途、研究開発学校(令和7年度は9都道府県46校)において柔軟な教育課程の取組を実施

学校種	小学校等	中学校等	義務教育学校
学校数	205	117	10

*小学校等には、義務教育学校の前期課程のみ指定を希望する学校を含む

*中学校等には、中等教育学校(前期課程)、義務教育学校の後期課程のみ指定を希望する学校を含む

*義務教育学校は、前期課程と後期課程の両方の指定を希望する学校

指定期間 令和8年4月～令和10年3月

都道府県別

区分	小	中	義務	合計	区分	小	中	義務	合計
北海道	2	1		3	三重県	3	3		6
青森県	1			1	滋賀県	4			4
岩手県	2	1		3	京都府	4	4		8
宮城県	3	1		4	大阪府	3	1		4
秋田県		1		1	兵庫県	2	2		4
山形県		1		1	奈良県	3	2	2	7
福島県	3	1		4	和歌山県	3	3		6
茨城県	4	1	1	6	鳥取県		1	1	2
栃木県	1	1		2	島根県	2	1		3
群馬県	3	2		5	岡山県	2	1		3
埼玉県	3	1		4	広島県	3	1		4
千葉県	5	5		10	山口県	1	2		3
東京都	10	2		12	徳島県	1	1		2
神奈川県	8	7		15	香川県	3	1		4
新潟県	1	1		2	愛媛県	3	4		7
富山県	9			9	高知県	4	3		7
石川県			1	1	福岡県	10	3		13
福井県		1		1	佐賀県	3	1	1	5
山梨県	1			1	長崎県	3	2		5
長野県	4	5		9	熊本県	7	1		8
岐阜県	1	2		3	大分県	4	1		5
静岡県	3	1		4	宮崎県	2	2		4
愛知県	1		1	2	鹿児島県	3	2	1	6
					沖縄県	2			2

指定都市別

区分	小	中	義務	合計
札幌市	4	1		5
仙台市	1	3		4
さいたま市	4	2		6
千葉市	2	1		3
横浜市	3	2	1	6
川崎市	6	3		9
相模原市	2	1		3
新潟市	4	1		5
静岡市	2			2
浜松市	3			3
名古屋市				※
京都市	5	4	1	10
大阪市	2	3		5
堺市	2	2		4
神戸市	4	3		7
岡山市	3	2		5
広島市	3	1		4
北九州市	3	1		4
福岡市	3	3		6
熊本市	2	1		3

※名古屋市は令和7年度から取り組んでいる研究開発学校の数を令和8年度から15校増やし、計19校で実施予定(外数)

国立大学別

区分	小	中	義務	合計
北海道教育大学	1			1
山形大学	1			1
福島大学		1		1
埼玉大学	1			1
東京学芸大学	1			1
横浜国立大学	1			1
富山大学	1	1		2
金沢大学		1		1
京都教育大学		1		1
大阪教育大学		2		2
熊本大学		1		1
合計	205	117	10	332

都道府県・指定都市あたり
 平均指定校数：4.8校

神山中学校：柔軟な教育課程の編成と実践ガイド

文部科学省の指定を受け、神山中学校では「調整授業時数制度」を活用した柔軟な教育課程を導入。各教科の時数を調整して生み出した「裁量的な時間」を活用し、生徒の個性や主体性を引き出す新しい学びの形を提案しています。

柔軟な教育課程の構築

標準授業時数の弾力的な調整



7教科・領域 × -5時間

各教科の時数を5時間ずつ削減し、年間計35時間の「裁量的な学習時間」を創出します。

2 実践的な学びと主体性の育成

対話力を高める学習手法の導入



ホワイトボードミーティングやGoogle Classroomを活用し、対話力と課題解決能力を養います。

創出される「裁量的な時間」



対象教科	(国・社・数・理・体・英・総)	創出される「裁量的な時間」
削減時数	各 -5時間	年間 35時間

全校生徒による合同学習の設定



全学年合同学習枠



毎週月曜日の第6校時を、全学年が共に学ぶ特別な枠組みとして固定します。

生徒主体のプロジェクトへの発展



サークル活動や「コトを起こせ会議」を通じ、生徒が自ら校則や活動を企画・運営します。

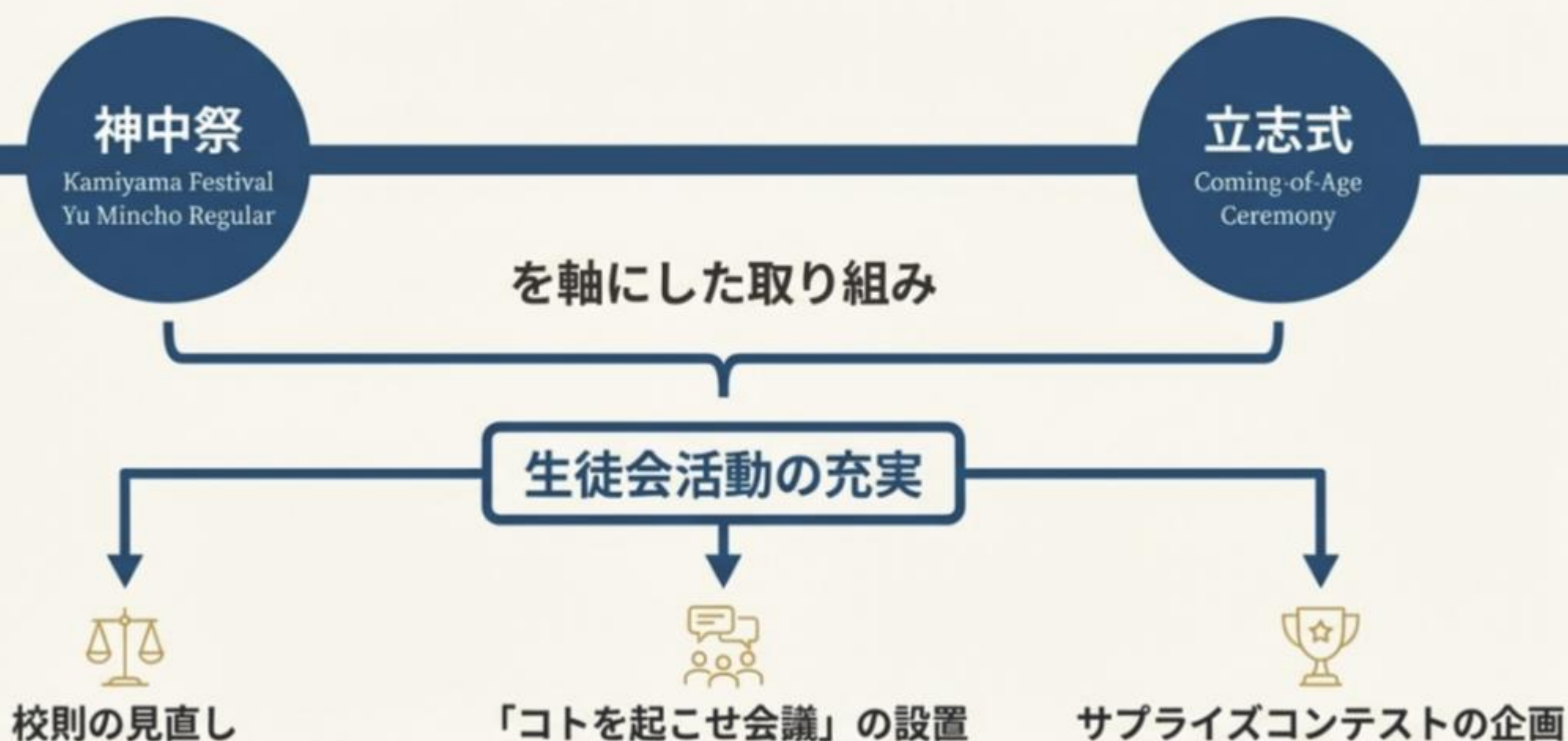
アントレプレナーシップの育成



自分の「好き」や「課題」を追求し、社会で生きる実践的な力を構築します。

重点戦略①：アントレプレナーシップ教育の実践

We will provide platforms for students to practice taking initiative and bringing ideas to life.



教育ビジョンの実践：アントレプレナーシップ教育の推進

取り組む事業 (Key Initiatives)



- 「神中祭」「立志式」を教育活動の軸として再定義



- ホワイトボードミーティングやGoogleクラスルームを活用した「話し合い活動」の訓練



- 企画書作成トレーニングの導入

具体的手法 (Specific Methods)



- 生徒会活動の充実



- サークル活動の実施



- サプライズコンテスト



- 校則の見直し



- 「コトを起こせ会議」の設置

重点戦略②：地域と社会に開かれた学校へ



学校・家庭・地域との連携強化：共に生徒を育む



PTA総会での学校経営方針の丁寧な説明



コミュニティスクールの「熟議」の活性化



「城西高校神山校」及び「神山まるごと高専」との連携強化



県立学校との広域的な連携を推進



神中サポーターズクラブの組織力強化

神山中学校が、生徒の未来の出発点になる。

校訓「やり遂げる」の精神

→ 生徒の「主体性」と「当事者性」を育む

→ 授業・体験・活動を通じ「4つの力」を育成



創造力



協働力



行動力



精神力

→ 4つのコンピテンシー（創造力・協働力・行動力・精神力）の獲得

→ 「自分の未来は、自分でつくる」生徒の実現

神山中学校の挑戦

生徒一人ひとりが、
「自分の未来は、自分でつくる」と信じ、
行動できる学校へ。